

かたの



R6. 9. 18
形埜小学校
校長室だより



子供たちが受け継ぐもの

9日(月)に稲刈りを行いました。春の田植えと同様に、睦会の方々に教えていただきながら、4～6年生の児童が、各自鎌を手に稲を刈り取りました。5・6年生には昨年までの経験がありますが、4年生にとっては初の体験です。それでも、どの子も笑顔で、一生懸命に取り組むことができました。また、稲刈りの後には恒例の「絆タイム」。睦会の方と子供たちが車座になり、米づくりに関するさまざまな質問にお答えいただきました。暑い中、子供たちの体験的な学びにご協力いただき、学校長として心より感謝しております。

さて、今回の稲刈りをはじめ、本校では学区の方々の力をお借りして様々な体験的活動を行っています。形埜の環境を生かした体験的な学習は本校の大きな特長であり、本校における子供の学びの大きな部分を占めています。こういった活動の中で、地域のエキスパートと触れ合えることは、子供たちにとって、単に体験や知識が得られるだけでなく、その方々の人情や生き方に触れ、自身の人生に反映していくきっかけとなる貴重な機会となります。大げさな言い方かもしれませんが、形埜の知識、技術、心、生き方を子供が受け継いでいく、そんな場になっていると私は考えています。

形埜小学校が育てているのは、他のどこでもない、この形埜学区の未来を担っていく子供たちです。これからも、様々な体験的活動で地域の方々の力をお借りし、「形埜の」子供たちを育てていきたいと考えています。





14日(土) 祖父母参観・敬老会 多数のご来校をいただきありがとうございました